

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2072200401		
法人名	社会福祉法人 敬老園		
事業所名	グループホーム にしうち敬老園		
所在地	長野県上田市西内800番地 (電話) 0268-44-2750		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年1月11日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	～	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	0	要介護 2	1
要介護 3	5	要介護 4	2
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 83.3 歳	最低 72 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・敬老園診療所 ・リハビリテーション鹿教湯三才山病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな法人発祥の地に有料老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、診療所等とともにホームがあり、温泉活用の複合型福祉施設が形成されている。運営推進会議の委員からの貴重な助言や意見が活かされ、地域との交流促進に反映されている。包括支援センターから健康推進委員を所管する市保健師への仲介があり、認知症高齢者理解のための研修へとつながり、研修を受けた方々が地域の見守り隊へと結びついている。今後は全市的な取り組みへと発展していくことが期待される。ホーム職員が健康推進委員の研修前勉強会に講師として派遣された。入居者の一日はまさに「平穏無事」で、研修後の健康推進委員のアンケートの「優しさのある場所でした。」との感想の通り、一人ひとりの思いを大切に聞き出すよう支援がされている。外出希望には可能な限り応じており、法人本部にあるレストランへも年2～3回出向いたり、入居者の身体状況に配慮しつつ、四季折々に1時間以内のドライブにも出かけている。複合施設全体で2ヶ所の源泉から引湯し、ホームもかけ流しの温泉を利用しており、毎日入浴が可能で、入居者の快適な生活に繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価での改善課題は特になく、運営面、サービス面ともに維持・継続されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	職員のインタビューでも管理者からの説明があり各項目についての意見を求められ、全職員が参加していることが確認できた。職員間のコミュニケーションも良く、評価で気づいたことは即改善につなげられ、小規模ならではの利点が活かされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	入居者の日頃の暮らしぶりや活動内容が詳細に報告され、委員からも貴重な意見・提案がされている。地域の健康推進委員のホームでの研修も地域包括支援センター長からの提案で実現され、認知症高齢者への理解を深める良い機会となっている。研修を受けた健康推進委員が地域の認知症高齢者見守り隊へと繋がっている。ホームの職員が地域の健康推進委員の研修前勉強会に講師として派遣された経緯もある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族会が年1回、母の日に開催されている。日頃の暮らしぶりは家族の来訪時や電話にて報告され、ホーム便りも年3～4回発行されている。暑中見舞い等にコメントをつけ報告もしている。家族との日頃のコミュニケーションが充分できていることから、不満、苦情等は今のところない。意見箱も玄関に設置されており、併設施設と兼任の第三者委員が選任されている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳を大切に・・・」を始めとしたホームの理念はシンプルで誰にでもわかるような内容になっている。昨年職員全員で関わり、つくり上げた。来訪者にも理解をいただけるよう玄関に掲示するとともに、職員間での理解を深めるために事務カウンター壁面にも掲示している。	○	地域密着型サービスへの移行に伴い、地域との関係性も重視されるようになったので、見直しの機会には考慮されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、複合型施設としての全体朝礼があり、法人の理念を確認している。ホームの理念については勤務中折にふれ話し合っている。職員のインタビューでも諳んじており、実践に繋がっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が地域内のお堂で夏季・毎月1回開かれるお茶飲み会に参加している。地域の老人施設からのお花見等へのお誘いもあり出かけている。複合型施設全体で開催する「お花見」・「納涼祭」・「もちつき大会」に地域の方も参加している。また、近くの小学生が音楽の演奏に来たり、中学校の福祉委員が来訪し入居者と係っている。今年7月から11月の間、52名の地域の健康推進委員がホームでの研修のため週1回、2～3名ずつ交替で訪れた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のインタビューでも管理者からの説明があり各項目についての意見を求められ、全職員が参加していることが確認できた。職員間のコミュニケーションも良く、評価で気づいたことは即改善につなげられ、小規模ならではの利点が活かされている。		

グループホームにしうち敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、民生委員、地域包括支援センター長、施設長、管理者で会議を構成している。入居者の日頃の暮らしぶりや活動内容が詳細に報告され、委員からも貴重な意見・提案がされている。地域の健康推進委員のホームでの研修も地域包括支援センター長からの提案で実現され、認知症高齢者への理解を深める良い機会となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターとの連携はよく取れている。包括支援センターから健康推進委員を所管する市保健師への仲介があり、認知症高齢者理解のための研修に繋がった。ホームの職員が地域の健康推進委員の研修前勉強会に講師として派遣された経緯もある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会が年1回、母の日に開催されている。日頃の暮らしぶりは家族の来訪時や電話にて報告され、ホーム便りも年3~4回発行されている。暑中見舞い等にコメントをつけ報告もしている。日用品等の購入についてはホームで立替払いをし、買物明細が利用料の請求書と一緒に同封され報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が玄関に設置されている。家族との日頃のコミュニケーションが充分できていることから、不満、苦情等は今のところない。併施設設との第三者委員を兼ねた方が2名おり、近所に在中の方が頻繁にホームへ来訪している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各入居者へは職員の担当制で支援しており、ダブルシフトで対応し、異動によるダメージを防いでいる。異動等がある場合は便りを出し、家族に知らせている。		

グループホームにしうち敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修が充実している。外部研修にも交替で参加している。サービス向上委員会など法人の中には各種委員会があり、職員は必ず1委員会に所属するようになっており、自己研鑽の場ともなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームが6ヶ所あり、グループホーム部会が2ヶ月に1回開かれ、共通の課題解決や情報交換を行っている。職員の他部署研修も兼ねた法人内ホーム間での交換研修も行われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験に応じる体制は整備されており、実際に見学もある。馴染み易い入居の流れとして、現在の入居者の中には隣接の有料老人ホームやデイサービスから入居に到った例もある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の個性や生活歴が十分把握されており、知恵や技術を引き出すような働きかけがされている。手打ちうどんや野菜のカットの仕方、汁物の味見の手順等、入居者の得意分野で教えていただくことが多いと伺った。		

グループホームにしうち敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者からの食事の希望も含めて要望等は比較的少ないが、一人ひとりの思いを大切に聞き出すよう支援がされている。特に外出希望には可能な限り対応しており、法人本部にあるレストランへも年2~3回出向いている。入居者の身体状況にも配慮し、1時間以内のドライブにも応じている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意見が計画に取り入れられている。毎月第一あるいは第二月曜日に処遇会議が開かれ、申し送りや記録等を参考に、全職員と計画作成担当者が各入居者ごとに検討し、計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各入居者の介護計画は状態の変化のある時は随時、状態が維持されている時は3ヶ月に一度見直しがされている。介護計画書の「具体的計画内容欄」も分かりやすい記述がされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診等に家族が付き添いが出来ない場合、家族に代わって職員が行う場合がある。		

グループホームにしうち敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複合施設敷地内の診療所が週5日(月・火・木・金・隔週土)開いており、入居以前のかかりつけ医の了解と本人・家族の同意も得て移行している。数名の入居者は昔からのかかりつけ医で受診を継続している。法人内の訪問看護事業所からも週1回看護師の訪問があり相談できる体制がつけられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては終末まで看取る方針である。家族、医師とも相談しながら、その都度、臨機応変に対応していくしかないとの考えで、早い段階で話をする機会を設けている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人の尊厳を大切に・・・」と理念にも掲げられている通り、職員の対応も穏やかで、言葉かけも丁寧であり、親しみを感じるものであった。個人情報に関する同意も契約時に本人・家族から得ており文書化され、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、入居者一人ひとりのペースがあり、職員も臨機応変に対応している。訪問時も、歌ったり、お喋りしたり、テレビを見たり、家族と外出したりと普通の家庭と同じ暮らしが営まれていた。		

グループホームにしうち敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問時の昼食は入居者手打ちの「ほうとうどん」でカボチャやアズキなど具沢山の内容であった。調理も入居者ができることを分担しており、準備や片付けも職員とともに行っていた。基本の献立は法人本部で作成されているが、ホームに合うようにアレンジしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	複合型施設全体で2ヶ所の源泉から引湯しており、ホームもかけ流しの温泉を利用している。毎日入浴が可能で、一人ひとりの希望や状態に合わせて支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の個性や生活歴に合わせてできることを支援している。カラオケやボール投げ、ぬり絵などを楽しんだり、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなどの家事を分担している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の特別養護老人ホームから招待を受けお花見に出かけたり、近くのお堂のお茶のみ会などに出かけている。法人の企画の田植え・稲刈りツアー、ホーム企画のドライブや本部内のレストランでの食事会などで外出している。夏季、敷地内の散歩も日常化している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけないようにしている。かつて外出傾向の入居者の遠出等の経験があり、見守りをしながらさりげなく声かけがされていた。訪問時は初冬ということもあり、山あいの地形に立地していることから安全面には細心の注意がはらわれていた。		

グループホームにしうち敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の対応マニュアルが整備されている。年2回(春・秋)複合施設全体での防災訓練が実施されており、ホームも参加している。地域の消防団の協力もあり、避難方法や避難経路についても職員に徹底されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は本部栄養士により立てられている。各入居者の食事量は介護記録、日誌等に記録されている。水分摂取量については別にチェック表があり把握されている。一日を通して摂取できるよう職員は留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内装は木の造りで、居間にはテーブルや椅子、ソファ、畳敷きの小上がりがあり、入居者がくつろいでいた。トイレもゆったりとしており、プライバシーに配慮してカーテン等の仕切りがされている。何と云っても、かけ流しの温泉利用のお風呂は羨ましい限りで、入居者の快適な生活に繋がっているものと思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は十分なスペースが確保されている。持ち込みも自由で、入居者の思い思いのものが持ち込まれている。見せていただいた居室は小奇麗に片付けられており、畳を敷いた居室やベッドが置かれた居室など入居者に合わせた居室づくりがされていた。		

※  は、重点項目。